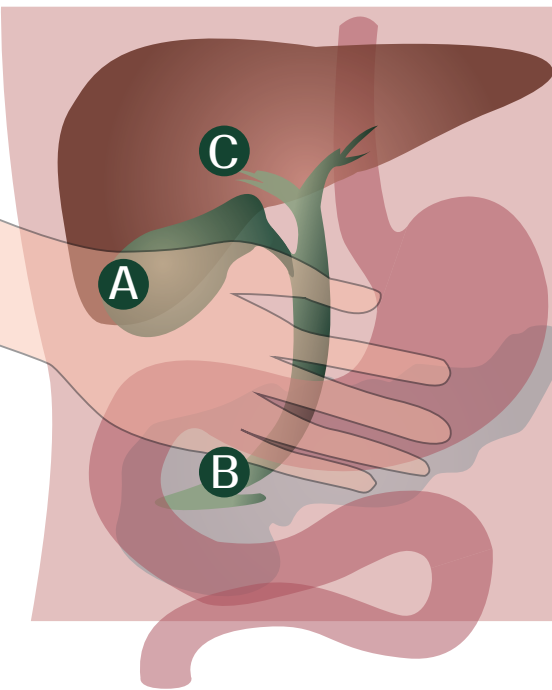


胆石

胆石とは、胆嚢(たんのう)や胆管(たんかん)にできる結石(石)で、肝臓から排泄される胆汁が固まったものです。結石のできる場所によって、**A胆嚢結石**、**B総胆管結石**、**C肝内結石**に分類され、それぞれ症状、治療法が異なります。

胆嚢結石は胆石の約80%と最も多く、一般的に胆石といえば胆嚢結石のことを指します。胆嚢に結石があっても多くの場合は無症状で、症状がでるのは胆嚢結石をもっている方の20%程度と言われています。食後の上腹部痛や発熱が主な自覚症状です。

胆石には大きく分けて「コレステロール結石」と「色素結石」があり、もっとも多いのはコレステロール結石(70%)です。脂肪分の多い食事やカロリーの高い食事、肥満、脂質異常症、糖尿病、妊娠、急激なダイエットなどが原因として挙げられます。



治療の適応

胆嚢結石があっても無症状の方は年に1回から2回程度の腹部超音波検査(エコー)で経過観察となることが多いです。胆嚢結石に伴う何らかの症状があれば治療の適応となります。ただし無症状の方でも、以下の①～④では将来的に痛みをおこす危険性が高いため、⑤では慢性的な炎症と胆嚢癌を区別することが難しいため、治療の適応となります。

- ①小さな胆石をたくさん持っている方
- ②胆嚢管(胆嚢と胆管をつなぐ管)に結石が詰まっている方
- ③胆嚢の働きが失われている方
- ④若年者
- ⑤腹部超音波検査やCTで胆嚢の壁が厚い方

胆嚢を取り除いた(胆嚢摘出した)場合、消化吸収機能の低下があるのではないかと懸念する患者さんもありますが、胆汁は肝臓から腸に直接排泄されますので、そのような心配はありません。

検診などで、胆石があるとされたことがある方は、主治医の先生とよく相談し、適切な治療を受けましょう。

胆石の手術とは

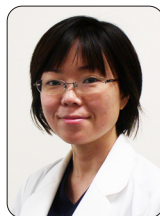
胆嚢結石に対する治療は一般的に胆嚢摘出術(腹腔鏡下手術あるいは開腹手術)です。

基本的に胆嚢ごと取り出します。胆嚢ごと摘出する理由は、

- ①胆嚢が炎症を起している
摘出が必要ことが多い
- ②壁が肥厚している場合、
癌を合併している可能性がある
- ③胆石を取り除いても
胆石を再び形成する可能性がある

などがあげられます。

しかし、患者さんが胆嚢摘出術に耐えられないと考えられた場合、内科的治療のみを行うこともあります。



外科医師
仁禮 貴子

信州大学2004年卒業
一般社団法人日本外科学会認定
外科専門医

ご予約・お問合せはこちらへ

電話予約
04-7123-5901

月曜日～土曜日 9:00～16:00
ただし、祝日および病院指定休診日を除く


kikkoman

キッコーマン総合病院

〒278-0005 千葉県野田市宮崎100
電話04(7123)5911(代) FAX 04(7123)5920
<http://hospital.kikkoman.co.jp/>